

第3回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

と き：令和8年3月3日(火) 午後7時～

ところ：瑞浪市役所西分庁舎1階会議室

次 第

1. あいさつ
2. 前回の振り返り
3. 議事
取組検証
地域懇談会開催事業（シティプロモーション課）
 - 1) 担当課より説明
 - 2) 本事業に参加した市民（自治会関係者）へのインタビュー
 - 3) 質疑応答
 - 4) グループワーク
 - 5) まとめ
4. 閉会のことば

配 布 資 料

- ・次第
- ・瑞浪市市民まちづくり会議 取組概要説明シート
- ・平成7年度 地域懇談会「市長と語る会」開催計画
- ・各地区テーマ一覧
- ・令和7・8年度 市民まちづくり会議実施スケジュール（案）

出 席 者

- ・出席委員
高野雅夫委員 後藤誠一委員 柴田洋子委員 渡邊啓介委員 柴田阿姫委員
板垣真裕美委員 本荘恵子委員 伊藤愛理委員 石川敏美委員 水野智文委員
- ・欠席委員
足立美樹 委員
- ・事務局
正木英二（みずなみ未来部長） 奥谷ひとみ（市民協働課長）
中箴高弘（市民協働課まちづくり支援係長） 大高まりあ（市民協働課まちづくり支援係）

1. あいさつ
(高野会長よりあいさつ)
2. 前回の振り返り
事務局より説明

3. 議事

取組検証

地域懇談会開催事業（シティプロモーション課）

1) 担当課より説明

担当課（シティプロモーション課）より説明

本事業に参加した市民（自治会関係者）へのインタビュー

2) 質疑応答

担当課及び参加した市民への質問

3) グループワーク

① 取組状況の評価

感想、特に評価すべき点などを付箋に記入

② 改善点を考える

「市民」「行政」それぞれの役割、できることを考え、改善点、不足する部分を付箋に記入

4) まとめ

2グループを横断すると、意見は次の7つのテーマに自然に集約されるものと考えます。

① 対話の場としての「価値・意義」は高い

- ・ 市長と直接話ができる
- ・ 市長に直接意見できる
- ・ 市長の見識が分かってよい
- ・ 気さくに話せる機会がある
- ・ 直接民主主義の取組として意義がある

評価の核

「市長と直接対話できること自体に大きな価値がある」

② 継続していること自体に意味がある

- ・ 継続していることに意味がある
- ・ 一定の成果がある
- ・ 8地区全部で実施している
- ・ 各担当課で共有し、市政に生かそうとしている
- ・ 全職員で共有している点がよい

評価の核

「単発でなく、継続と共有の仕組みがあることは強み」

③ 地域課題を共有できる場になっている

- ・ 地域の問題が話題になる
- ・ 地域特有の問題を全体に共有できる
- ・ 多様なテーマが扱われる
- ・ 一度参加してみたいと思える

評価の核

「地域の声を見える化する場として機能している」

④ 参加しにくさ・参加層の偏りがある

- 必要な人ほど参加できない可能性がある
- 20～50代、特に女性が参加しやすい設定が必要
- 子ども・中高生の参加の工夫が必要
- おじいさんばかりで怖い印象がある
- 少人数・座談会形式・希望制などの工夫が必要
- カジュアルさが必要

課題の核

「場はあるが、参加しやすい設計が十分ではない」

⑤ 広報・情報発信が弱い

- 市民への周知不足
- PRの仕方に工夫が必要
- 若年層へのPR不足
- ネット活用不足
- SNSやアンケート活用の余地がある
- 会の良さや成果が十分伝わっていない

問題の本質

「やっていないのではなく、伝わっていない」

⑥ テーマ設定や運営方法に改善余地がある

- テーマが絞られておらず、何を話せばよいか分かりにくい
- テーマを作られると話しにくい
- 時間や進め方の改善が必要
- オンライン配信、コメント受付、途中参加など柔軟性が必要
- 成果の整理や見せ方が不十分

運営上の課題

「対話の価値を高めるには、進行設計の見直しが必要」

⑦ 市民側にも協働意識が求められる

- 単なる要望ではなく協働の取組として考える必要がある
- もっと知ろうとする意識が必要
- 当事者意識が必要
- 参加すること自体が大切
- 誘い合って参加することが必要
- 意見の集約だけでなく深める必要がある

今後の方向性

「行政に求めるだけでなく、市民も主体として関わるのが重要」

全体構造（因果関係図）

市長と直接話せる貴重な場がある

↓

地域課題を共有し、市政へつなげる可能性がある

↓

しかし

- 参加層が偏る
- 周知が弱い
- 運営方法が固い／分かりにくい

↓

結果

参加の広がり・継続・市民の主体的関与が進みにくい

本質的な結論（統合）

■ 問題の正体

対話の場そのものに価値がないのではない

参加意欲がまったくないのでもない

「参加しやすく、伝わりやすく、協働につながる仕組み不足」

■ 今後の方向性（両グループ共通認識）

行政側

- 参加しやすい形式への見直し
- 若年層や女性を意識した広報強化
- SNS、オンライン、アンケートなど多様な参加手法の導入
- 成果や反映内容の見える化

市民側

- 要望型から協働型への意識転換
- 誘い合って参加する姿勢
- 当事者として地域課題を考える
- 意見を出すだけでなく深めていく関わり方

まとめ

両グループの意見を総合すると、「市長と語る会」は、市長と市民が直接対話できる貴重な機会であり、地域特有の課題を共有し、市政へつなげていく場として高く評価されていることが確認できた。また、継続して開催されていることや、担当課・職員間で内容を共有しようとしている点にも一定の意義が認められている。一方で、参加者の年齢層や属性に偏りが見られ、特に若い世代や女性、子育て世代などにとっては参加しやすい場になっていない可能性があること、さらに会の存在や意義、成果が市民全体に十分伝わっていないことが共通課題として挙げられた。加えて、テーマ設定や進行方法がやや分かりにくく、自由に話しづらい、参加しづらいと感じさせる面もあり、運営面の工夫が必要であるとの認識が共有された。これらを整理すると、「市長と語る会」は意義ある取組である一方、その価値をさらに高めるためには、

参加しやすい仕組みづくり、成果の可視化、広報方法の改善、そして市民側の協働意識の醸成が重要であり、今後は行政と市民がともに主体となって対話の質と広がりを高めていくことが求められる。

4. 閉会のことば

みずなみ未来部長より閉会のことば